

木材需給動向について (北海道地区)

令和2年7月
林野庁

目次

1 価格の動向

(1) 原木価格

①直近の価格推移（原木市場・共販所）

ア) スギその他（北海道地区）

イ) スギ（全国）

②過去の価格推移との比較

(2) 製品価格の推移・動向

2 生産等の動向

(1) 原木生産の動向（北海道地区）

(2) 工場の原木の入荷、製品の生産等の動向

①製材（全国・北海道地区）

②合板（全国）

③製材・合板等の動向（北海道地区）

3 住宅着工戸数の推移

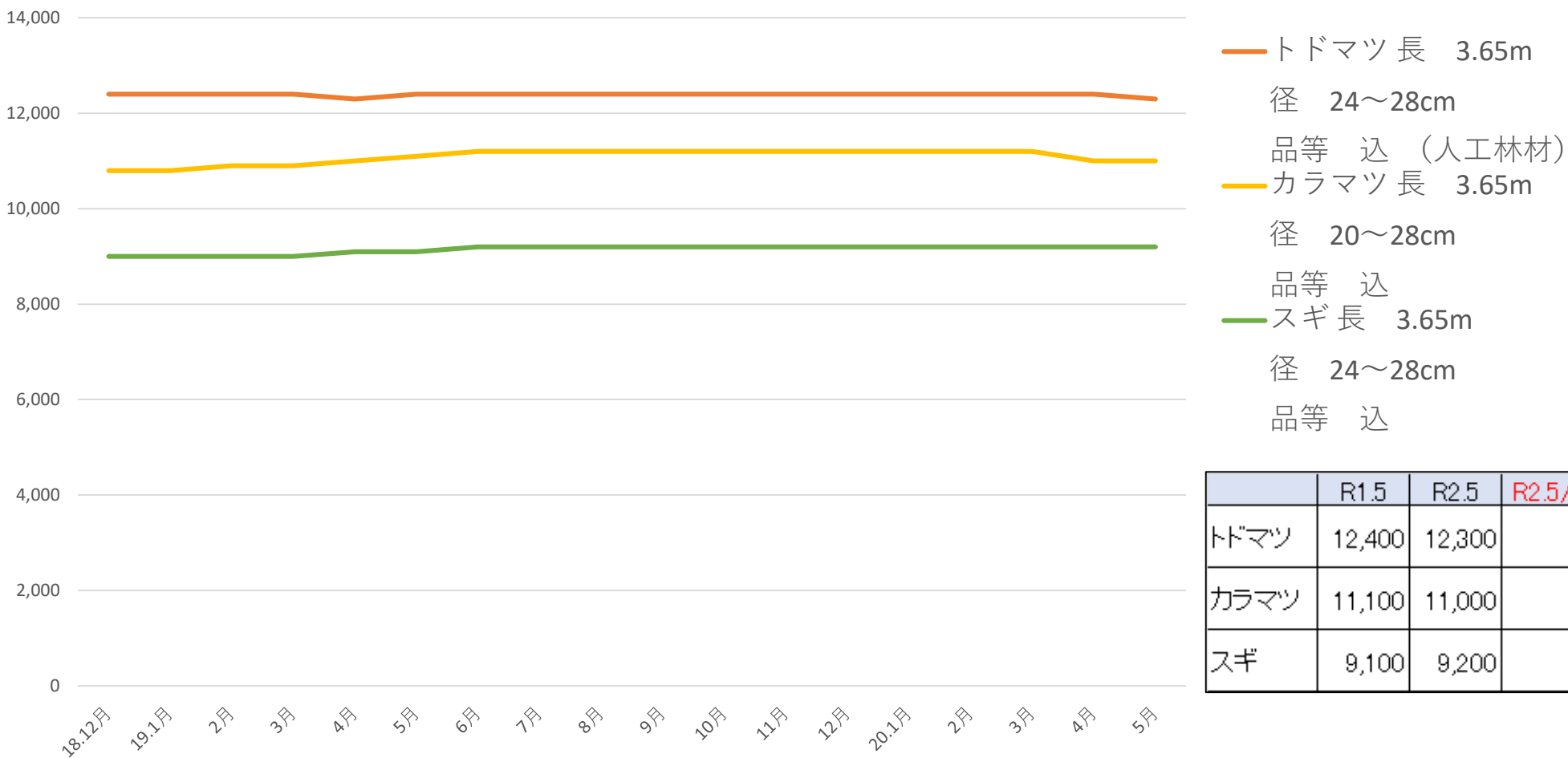
4 主要木材の需給見通し

1 価格の動向 (1) 原木価格 ①直近の価格推移 (原木市場・共販所)

ア) スギその他(北海道地区) φ24cm程度、3.65~4.0m (平成30年12月~)

・ トドマツ、カラマツ、スギ共に季節変動が無く、価格は概ね横ばい。

原木市場・共販所における木材価格の推移

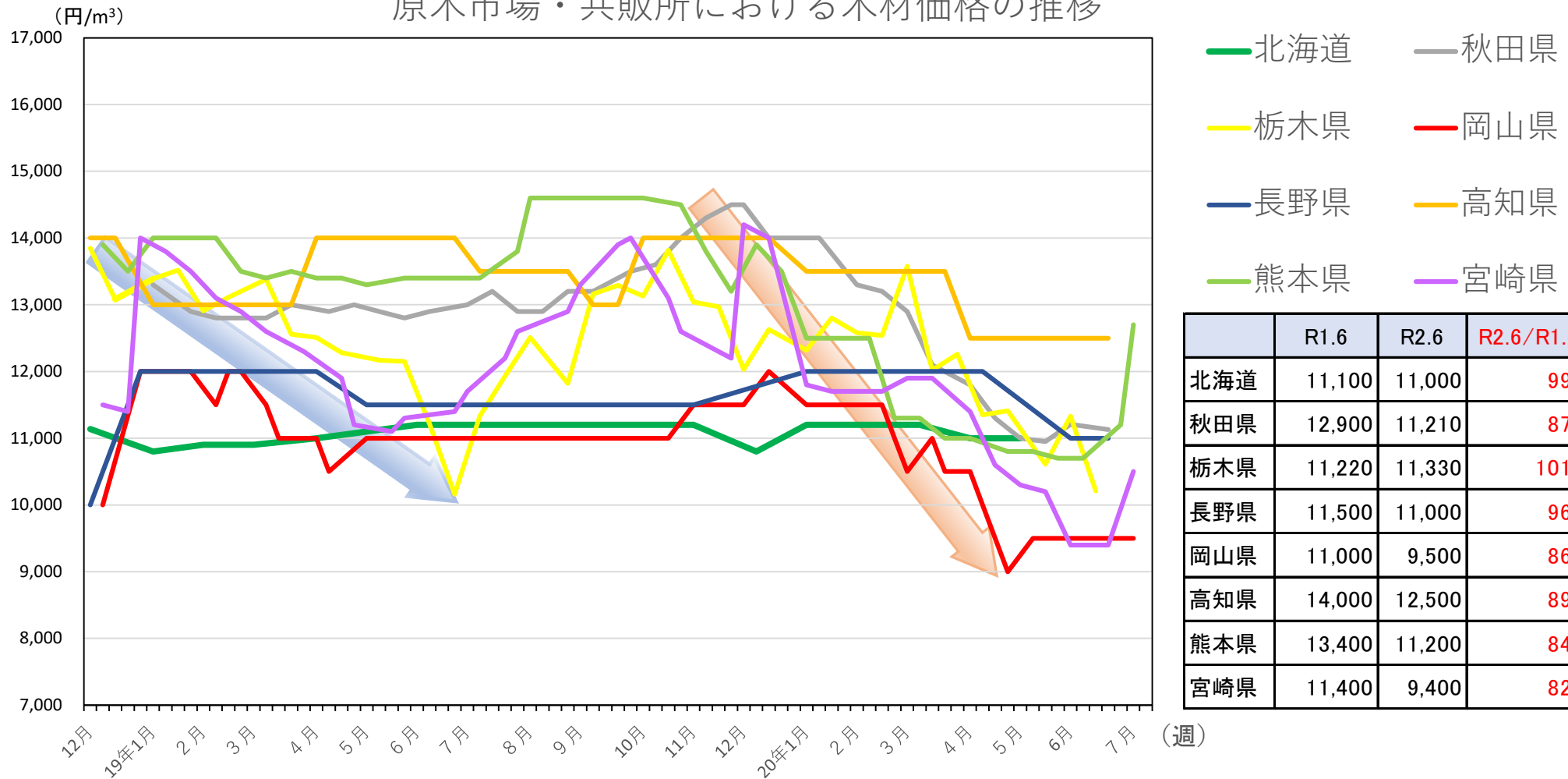


1 価格の動向 (1) 原木価格 ①直近の価格推移 (原木市場・共販所)

イ) スギ (全国) φ24cm程度、3.65~4.0m (平成30年12月~)

- ・ 例年12月から梅雨時期まで原木価格は下落する傾向にあるが、本年は下落幅が大きく急となっている。
- ・ 6月下旬から、熊本県、宮崎県では価格の回復が見られるが、豪雨災害による出材減が要因の一つと考えられる。
- ・ 本年6月のスギ原木価格は、**対前年比18%減~1%の増**。

原木市場・共販所における木材価格の推移



注1：北海道はカラマツ（工場着価格）。径級は24.0cm程度、長さは3.65~4mの中目原木。

注2：都道府県が選定した特定原木価格・共販所の価格。

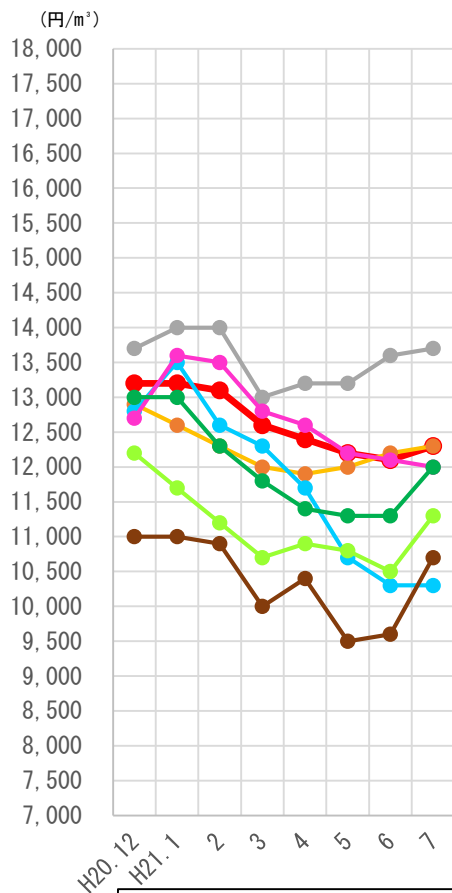
資料：林野庁木材産業課調べ

②過去の価格推移との比較 (スギ中丸太φ24~28cm、3.65~4.0m)

過去に原木価格の下落幅が大きかった時期と比較すると、

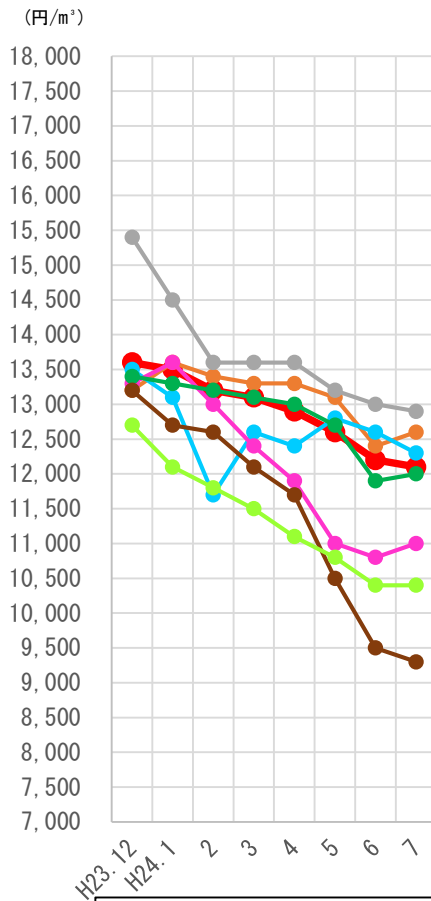
- ・ 為替の影響で近年、**価格は高く推移**。
- ・ 大分県、宮崎県など**生産量の多い地域ほど下落幅が大きい**傾向。
- ・ 本年6~7月にかけて**価格の底入れ**があるかどうかを見極める必要。熊本県、大分県では兆しが見られる。

リーマンショック (H21)



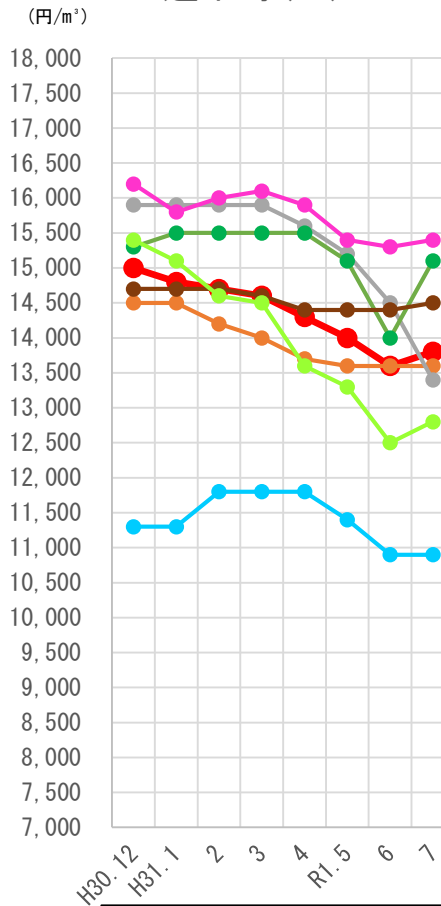
(為替) 90~99円/ドル

欧州円高 (H24)



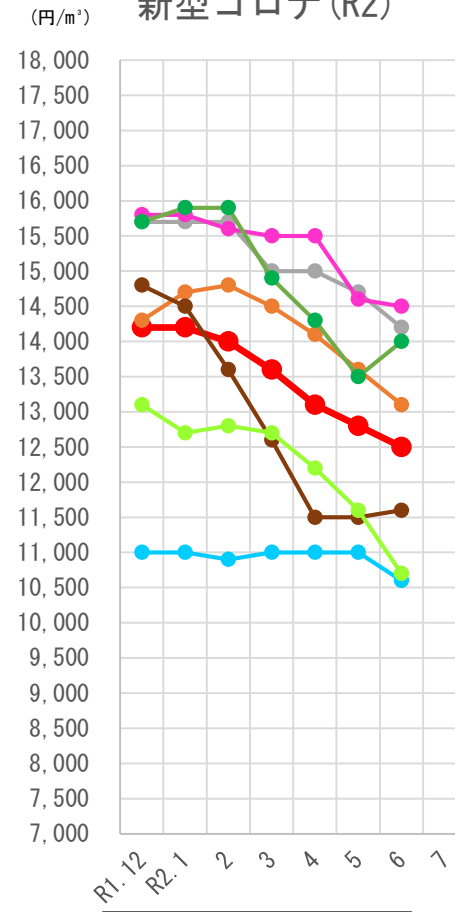
77~82円/ドル

通常時 (R1)



108~112円/ドル

新型コロナ (R2)



107~110円/ドル

● 全国 ● 秋田県 ● 栃木県 ● 岡山県 ● 愛媛県 ● 熊本県 ● 大分県 ● 宮崎県

(2) 製品価格の推移・動向

- ・製品価格は原木価格と異なり季節変動はないが、本年は**価格の下落**が見られる。
- ・**エゾマツ、トドマツ柱角乾燥材**は4月にかけて**600円/m³の下落**。
- ・住宅の着工動向によっては、今後も下落の傾向が続く可能性。

○ 柱角・乾燥材 105×105×3000mm [円/m³]

| | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 前月比 |
|----------------|--------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 北海道 (エゾ・トド) | 67,700 | →67,100 | 67,100 | - | - | - |
| 東北 | 58,000 | 58,000 | 58,000 | 58,000 | →55,000 | ▲ 3,000 |
| 首都圏 | 54,000 | →53,000 | 53,000 | 53,000 | 53,000 | 0 |
| 大阪 | 55,000 | 55,000 | →54,000 | 54,000 | →52,000 | ▲ 2,000 |
| 名古屋 | 65,000 | 65,000 | 65,000 | →60,000 | →55,000 | ▲ 5,000 |
| 九州 | 52,000 | →50,000 | 50,000 | →48,000 | 48,000 | 0 |
| 広島 | 56,000 | 56,000 | 56,000 | 56,000 | 56,000 | 0 |

※北海道のみエゾ・トド105×105×3650mm。他地域はスギ。

○ スギ集成管柱 105×105×3000mm [円/本]

| | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 前月比 |
|----------------|-------|--------|--------|-------|--------|------|
| 北海道 (エゾ・トド) | 2,000 | 2,000 | →2,100 | - | - | - |
| 北海道 (カラマツ) | 2,600 | 2,600 | 2,600 | - | - | - |
| 東北 | 1,800 | 1,800 | 1,800 | 1,800 | 1,800 | 0 |
| 大阪 | 1,750 | 1,750 | 1,750 | 1,750 | 1,750 | 0 |
| 九州 | 1,800 | 1,800 | 1,800 | 1,800 | - | - |
| 広島 | 1,900 | →1,880 | 1,880 | 1,880 | →1,860 | ▲ 20 |

○ ヒノキ柱角・乾燥材 105×105×3000mm [円/m³]

| | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 前月比 |
|-----|--------|---------|---------|--------|---------|---------|
| 首都圏 | 66,000 | →65,000 | 65,000 | 65,000 | 65,000 | 0 |
| 大阪 | 64,000 | 64,000 | →63,000 | 63,000 | →61,000 | ▲ 2,000 |
| 名古屋 | 65,000 | 65,000 | 65,000 | 65,000 | 65,000 | 0 |
| 九州 | 62,000 | 62,000 | →61,000 | 61,000 | 61,000 | 0 |
| 広島 | 65,000 | 65,000 | 65,000 | 65,000 | 65,000 | 0 |

※九州のみ120×120×3000mm

○ 針葉樹構造用合板 12×910×1820mm [円/枚]

| | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 前月比 |
|-----|-------|--------|--------|--------|--------|------|
| 東北 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 0 |
| 首都圏 | 1,050 | →1,030 | 1,030 | →1,010 | → 980 | ▲ 30 |
| 大阪 | 1,050 | →1,010 | →1,000 | → 990 | → 950 | ▲ 40 |
| 名古屋 | 1,050 | →1,020 | 1,020 | →1,000 | → 960 | ▲ 40 |
| 九州 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | - | - |
| 広島 | 1,070 | →1,050 | →1,030 | 1,030 | →1,000 | ▲ 30 |

2 生産等の動向

(1) 原木生産の動向（北海道地区）

素材生産事業者への影響について、

- ・ 出荷状況は、製材・合板工場の入荷制限が長期化しており、依然として厳しく、経営への影響が懸念。
- ・ 木材需要の低迷が長期化した場合、秋以降の搬出間伐等に影響が出る懸念。

○原木の出荷状況、販売価格

【4月時点】
素材生産事業者の4割
(全国ベース)が、既に
出荷状況が悪化と回答

【5月以降】
北海道地区においても、
原木滞留や素材生産の
見合わせ等が発生

【現在】
合板工場、製材工場の入荷制限
が長期化。素材生産事業者の経
営への影響が懸念される状況

➤ 具体的な声

- ・ 減産のため、稼働日を20%減らす工場もあり、原木入荷を制限。
- ・ 特にトドマツが滞留しており、売上高2割減の予想。各工場の在庫も非常に多く、行き場を失った原木が山元に滞留しており、原木の品質低下も懸念される。
- ・ カラマツは、比較的価格が変化しにくいですが、このまま製材の引き合いの低迷が続けば値下がりの可能性。

○作業の移行状況

➤ 具体的な声

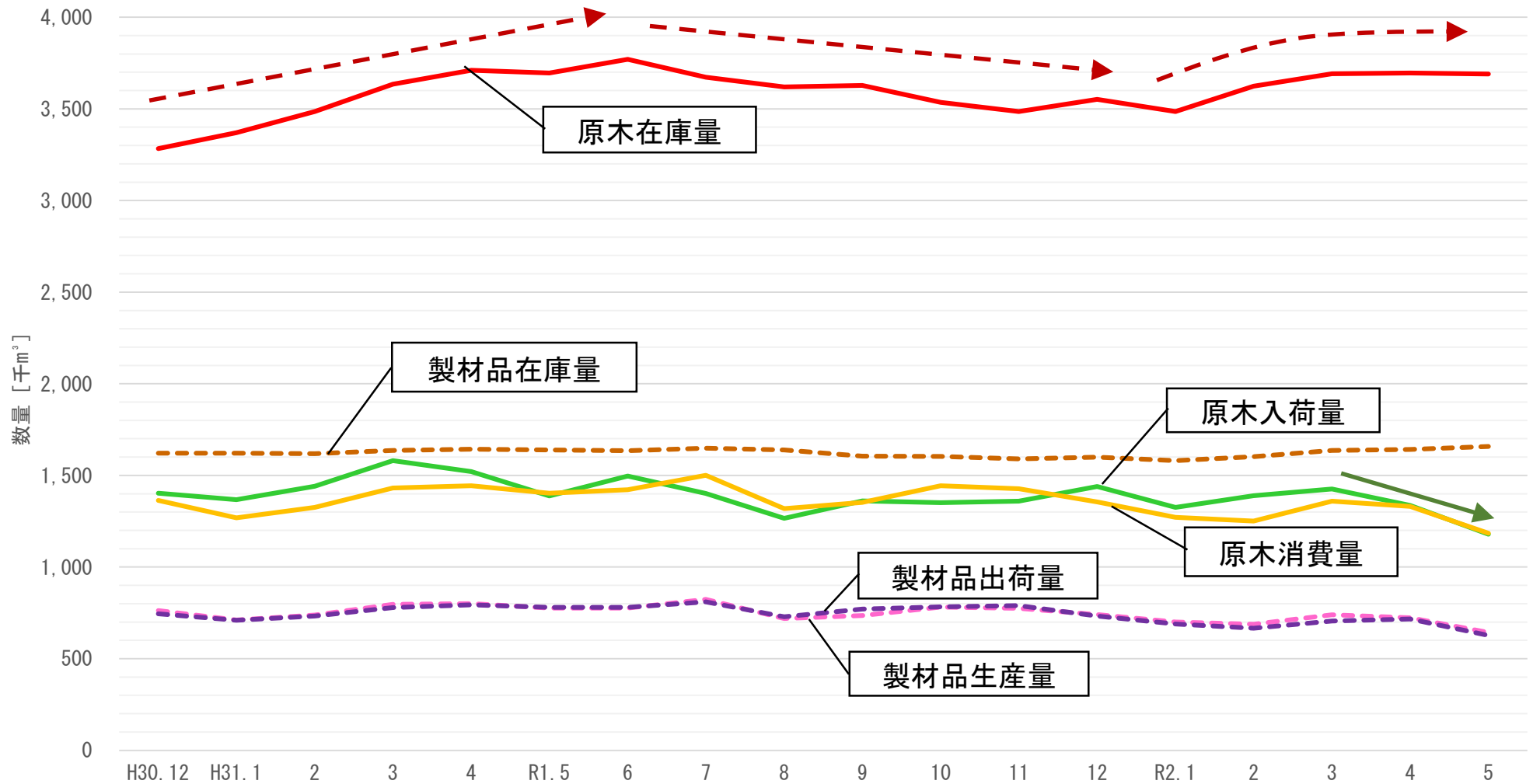
- ・ 現在の作業は植林主体だが、今後、木材需要の低迷が長期化した場合、秋以降の搬出間伐等に影響が出る懸念。

(2) 工場の原木の入荷、製品の生産等の動向

① 製材 (全国)

「製材統計」によると、

- ・ 製材品の生産量、出荷量、在庫量は年間を通じて大きな変化はない（グラフの破線部分）。
- ・ 原木の入荷量、消費量は2、3ヶ月単位で、在庫量は半年単位で増減を繰り返す傾向。
- ・ 現在、**原木の入荷量・消費量は減少**のトレンド、**在庫量は増加**のトレンドから**横ばいに移行**しつつある。



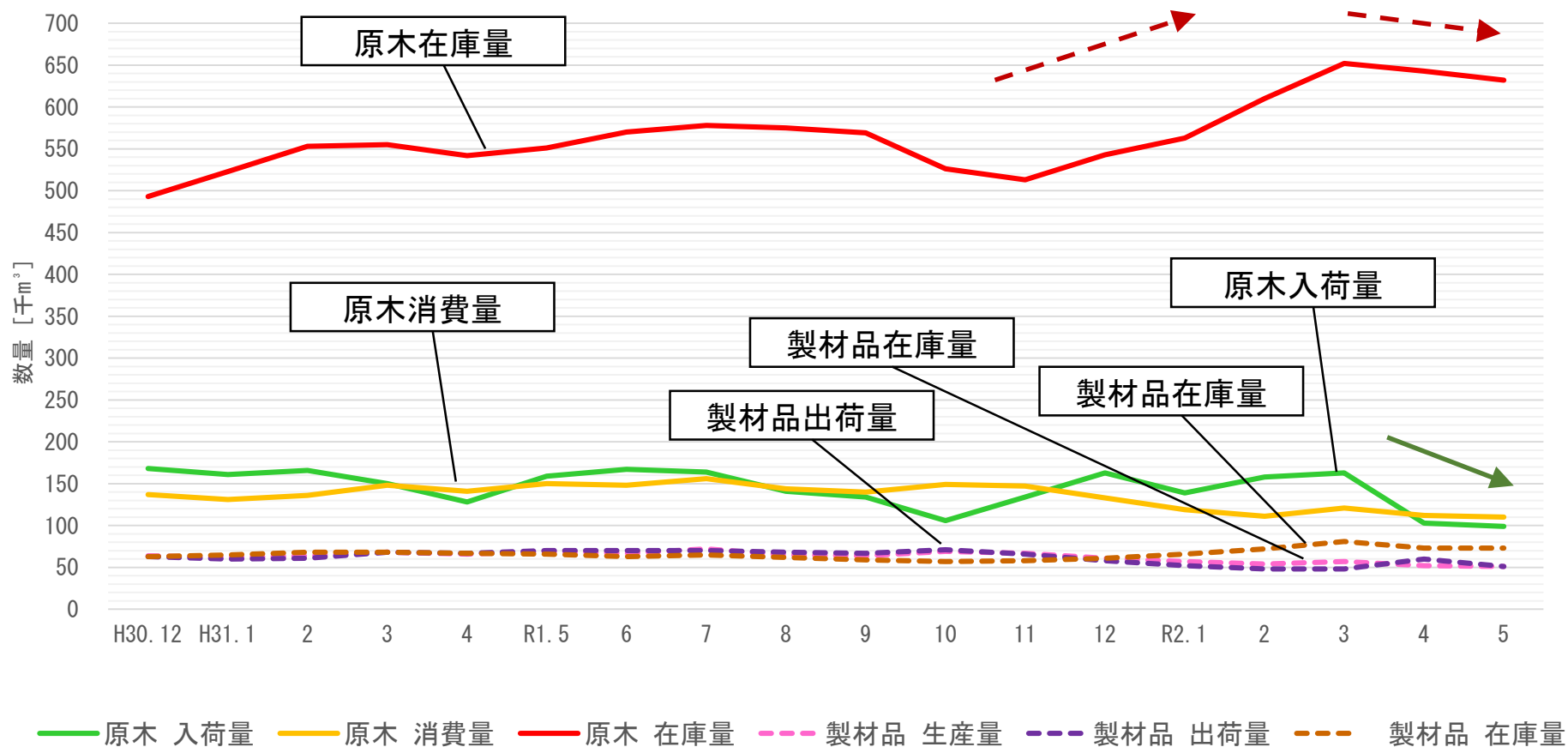
資料：農林水産省「製材統計」

(2) 工場の原木の入荷、製品の生産等の動向

① 製材 (北海道地区)

「製材統計」によると、北海道地区では、

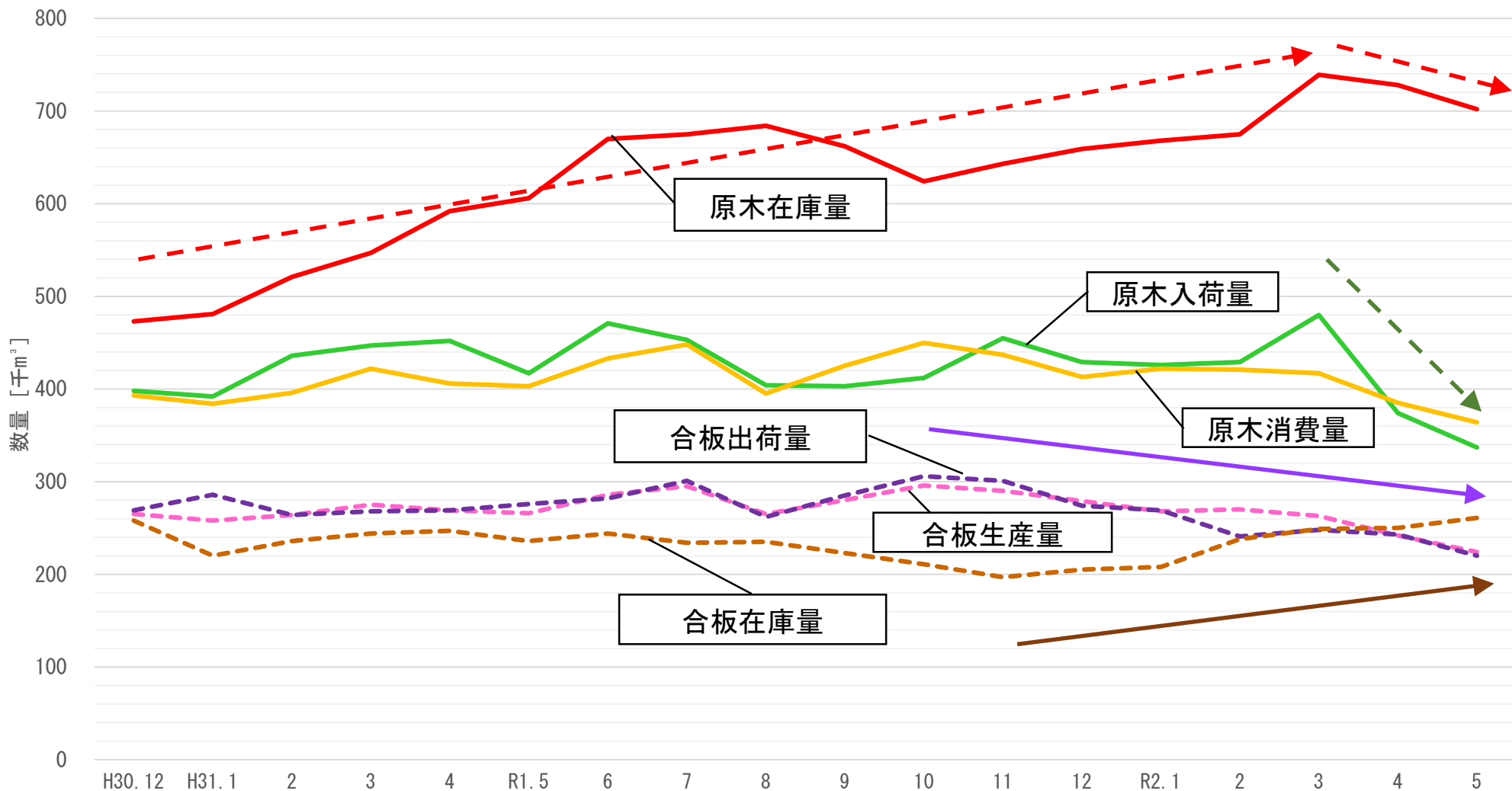
- ・ 製材品の生産量、出荷量、在庫量は年間を通じて大きな変化はない（グラフの破線部分）。
- ・ 原木の**入荷量**は半年単位で増減を繰り返す傾向だが、**3月以降急減**。在庫量は増加のトレンドから**減少傾向**に移行しつつある。



②合板（全国）

「合板統計」によると、

- ・合板の生産量、出荷量は昨年10月以降、減少傾向にある一方、在庫量は増加傾向（グラフの破線部分）。
- ・原木の入荷量、消費量は、数ヶ月単位で増減を繰り返しているが、3月以降の入荷量は急激に減少。
- ・原木の在庫量は増減を繰り返しつつ長期的に増加していたが、3月以降再び減少傾向にある。



資料：農林水産省「合板統計」

③製材・合板等の動向（北海道地区）

製材・合板工場等への影響について、

- ・ 4月以降継続して、減産している工場が多い。更に現在は、週4日操業にするなど20%減産を実施している工場もある。
- ・ 製品の減産に伴い、原木の入荷制限を継続。また、一部の工場で、入荷制限の割合を引き上げ。

○製品販売の状況

【4月時点】

- ・ 製材工場のうち4割
- ・ 合板工場のうち6割の工場が減産（全国ベース）

【5月以降】

北海道地区においても、製品販売不振のため、減産を継続

【現在】

減産を継続。さらに、一部の工場では20%程度の減産を実施

➤ 具体的な声

- ・ 一部工場では、操業日を週5日から4日に減らし、20%減の減産を実施。
- ・ 製材工場においても、原木の入荷制限をしつつ、稼働日数を減らすなどの生産調整を実施。
- ・ 製材の主力製品の梱包材、パレット材も輸出産業の低迷で需要が30%程度減少。
- ・ エゾマツ、トドマツ、カラマツともに製材生産量は前年同月を下回る。

○原木入荷の状況

【4月時点】

- ・ 製材工場のうち2割
- ・ 合板工場のうち4割の工場が原木入荷を制限（全国ベース）

【5月以降】

減産に伴う、入荷制限を継続

【現在】

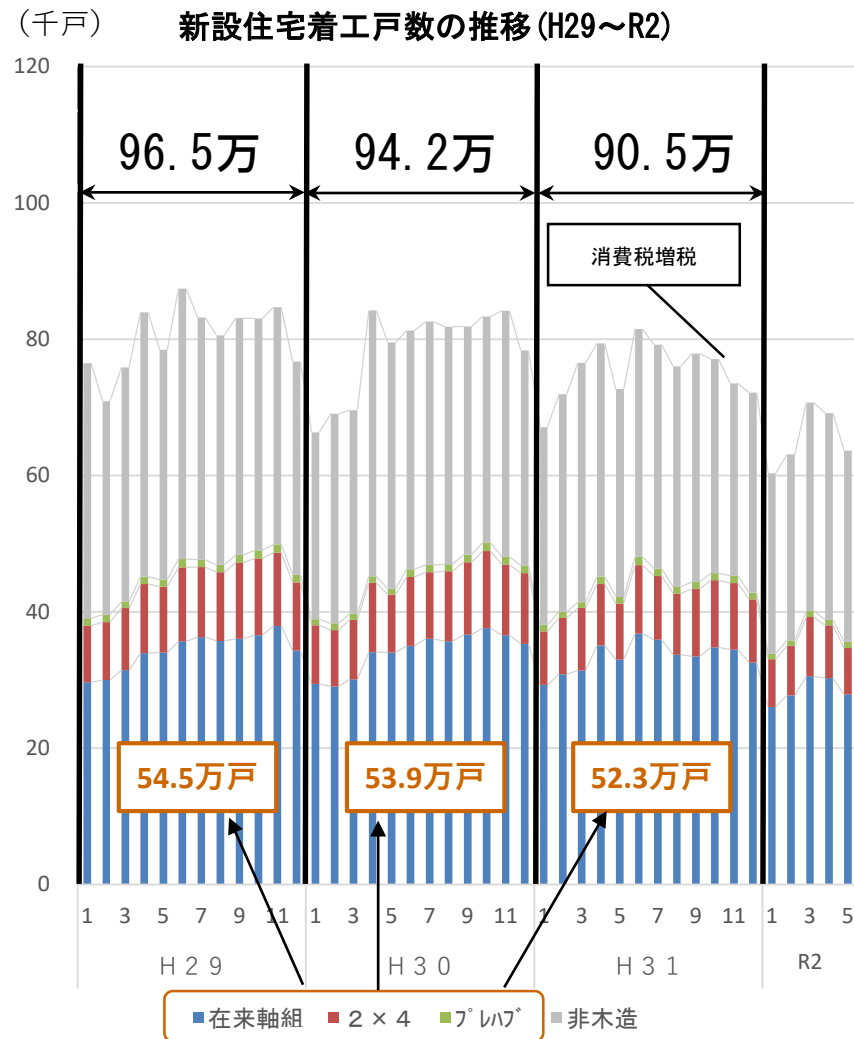
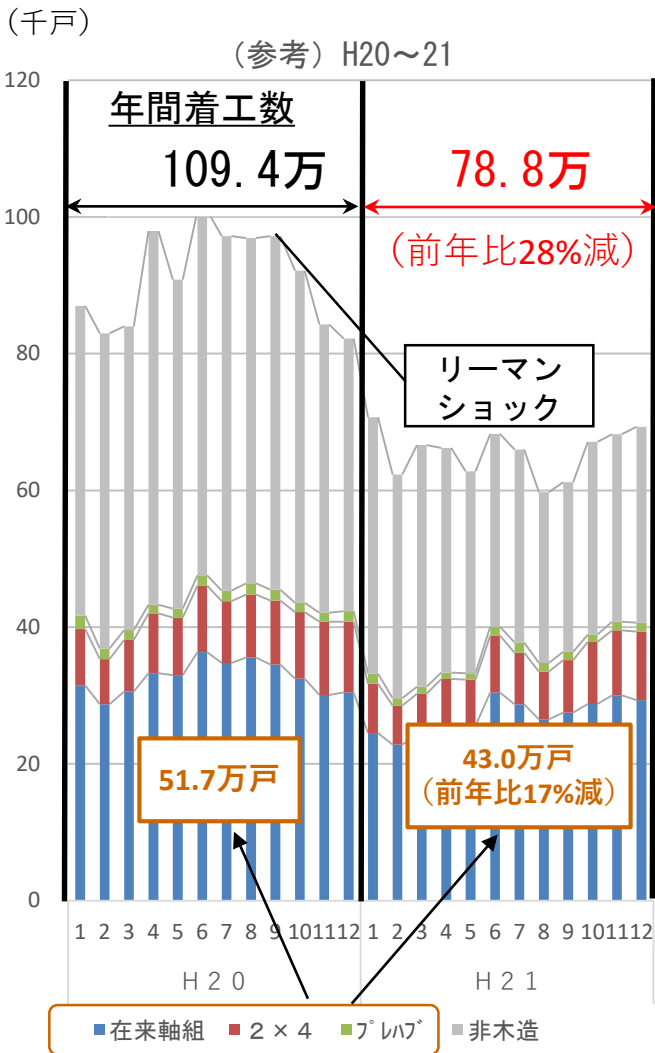
入荷制限を継続

➤ 具体的な声

- ・ 合板工場、製材工場が原木入荷を制限している。

3 住宅着工戸数の推移 (平成20年1月～令和2年5月)

- ・昨年度の新設住宅着工戸数は、90.5万戸。そのうち、**木造住宅は52.3万戸 (57.8%)**。
- ・**令和2年度1～5月**の木造住宅着工戸数は、**18.4万戸 (前年比11.1%減)**。
- ・緊急事態宣言が発令期間中、住宅メーカー等では営業時間を短縮、訪問打合せを中止しており、住宅展示場の来場者が激減するなど、**大手・注文住宅の受注機会が大幅減少**。今後の着工の動向を注視する必要。



今後の動向を注視する必要！

| |
|-----------------------------|
| 令和2年1～5月期 住宅着工戸数 |
| 総計 32.7万戸 (前年比11.0%減) |
| 非木造 14.3万戸 (前年比11.1%減) |
| 木質プレハブ 0.4万戸 (前年比11.9%減) |
| 2×4 3.7万戸 (前年比11.8%減) |
| 在来木造 14.3万戸 (前年比10.7%減) |

木造18.4万戸
(前年比11.1%減) 11

資料：国土交通省「住宅着工統計」

木造住宅

4 主要木材の需給見通し（平成31年第1四半期～令和2年第4四半期）

林野庁が主催する木材需給会議では、今後の需給見通しを以下のとおり見通している。

- ・製材用丸太は、第2四半期（4～6月）に前年同月比77.2%と大きく落ち込んだが、その後は持ち直す。
- ・合板用丸太も同様に、第2四半期に87.6%と落ち込んだが、第4四半期に増加に転じる。
- ・合板は、第2四半期に88.9%と落ち込んだが、第4四半期に増加に転じる。
- ・集成材は、欧州からの輸入環境の悪化から、第3四半期以降大きく落ち込むと見通す。

（単位：千m³）（下段は前年同期比）

| 年 | 四半期 | 区分 | 丸太 | | | 輸入 製材品 計 | 合板 | | 構造用集成材 | |
|-----------------|--------|-------|--------|--------|---------|----------------|--------|--------|--------|--------|
| | | | 国産材 | | 輸入 計 | | 国内製造 | 輸入 | 国内製造 | 輸入 |
| | | | 製材用 | 合板用 | | | | | | |
| 令和元年 (平成31年) | 4-6月 | 実績 | 3,366 | 1,256 | 827 | 1,567 | 821 | 614 | 475 | 210 |
| | | | 103.1% | 108.4% | 104.1% | 94.8% | 100.8% | 79.2% | 102.2% | 92.1% |
| | 7-9月 | 実績 | 3,046 | 1,190 | 658 | 1,501 | 841 | 589 | 490 | 218 |
| | | | 103.9% | 111.5% | 83.7% | 99.8% | 104.7% | 89.2% | 108.9% | 110.6% |
| | 10-12月 | 実績 | 3,324 | 1,212 | 715 | 1,352 | 865 | 648 | 505 | 214 |
| 99.1% | | | 102.5% | 97.1% | 94.2% | 106.4% | 83.6% | 109.8% | 111.4% | |
| 年計 | | | 13,108 | 4,839 | 3,026 | 5,795 | 3,324 | 2,535 | 1,915 | 839 |
| | | | 103.3% | 108.1% | 94.0% | 94.4% | 103.3% | 86.7% | 105.5% | 103.2% |
| 令和2年 | 1-3月 | 実績 | 3,222 | 1,217 | 649 | 1,261 | 801 | 633 | 460 | 212 |
| | | | 95.6% | 103.1% | 78.6% | 91.7% | 100.5% | 92.5% | 103.4% | 107.6% |
| | 4-6月 | 見込み | 2,600 | 1,100 | 619 | 1,315 | 730 | 612 | 465 | 220 |
| | | | 77.2% | 87.6% | 74.8% | 83.9% | 88.9% | 99.7% | 97.9% | 104.8% |
| | 7-9月 | 見通し | 2,700 | 1,100 | 625 | 1,250 | 730 | 546 | 365 | 250 |
| | | | 88.6% | 92.5% | 95.0% | 83.3% | 86.8% | 92.7% | 74.5% | 91.8% |
| 10-12月 | 見通し | 2,700 | 1,180 | 669 | 1,255 | 780 | 540 | 365 | 190 | |
| | | 81.2% | 97.4% | 93.6% | 92.8% | 90.2% | 83.3% | 72.3% | 88.8% | |
| 年計 | | | 11,222 | 4,597 | 2,562 | 5,081 | 3,041 | 2,331 | 1,655 | 872 |
| | | | 85.6% | 95.0% | 84.7% | 87.7% | 91.5% | 92.0% | 86.4% | 104.0% |